



東京2020 第27回理事会 資料

決議事項

資料1-1 基本プランの概要および4式典の演出企画の実施体制

資料1-2 大会準備に係る契約等について



基本プランの概要および4式典の演出企画の実施体制

2018年7月30日

はじめに

- オリンピックとパラリンピックにはそれぞれ固有の精神、ビジョンがあることを踏まえた上で、東京2020大会ではオリンピック開会式からパラリンピック閉会式までの4つの式典を一体と捉えることを提案している。
- 昨年12月に策定された、「平和」「共生」「復興」「未来」「日本・東京」「アスリート」「参画」「ワクワク感・ドキドキ感」という8つのコンセプトからなる「東京2020大会開会式・閉会式に関する基本コンセプト」に基づき、基本プランとして4式典を貫くメッセージと各式典それぞれのメッセージについて検討を進めてきた。

基本プランの考え方

・ 基本コンセプトから基本プランへ

8つのコンセプトを活かし、オリンピックとパラリンピックそれぞれの意義を開会式・閉会式で伝えたい。

基本プランには、「8つのコンセプト」と、

「4式典の位置づけ」を出発点としながらも、革新的でチャームングな方法で世界を大きく変えるきっかけになるような影響力のあるメッセージを盛り込みたい。

新しい4式典のあり方

【オリンピック開会式】

- ・国内外からの注目度が非常に高い式典であり、世界から集うアスリートや観客を歓待する。
- ・東京2020大会の幕開けの式典として4つの式典の萌芽である。
- ・東京2020大会の担う歴史的意義や社会的意義、招致時のコンセプトに鑑みて4式典を貫くポジティブなメッセージを世界に発信する。

【パラリンピック開会式】

- ・東京は二度目の夏季パラリンピックを開催する史上初の都市であり、中でも開会式は世界中の注目を集める機会である。
- ・違いを認め合い、支え合い、活かしあうことで、多様で平等な共生社会を目指すことを世界に伝える。
- ・多様なものを様々にかけ合わせることで、既成概念を超えた新しい可能性を探り、人々の意識を変えるきっかけにする。

【オリンピック閉会式】

- ・競技を終えたアスリートの健闘を称える。また、アスリートに限らず、人々の心に感動を残した方々も讃えたい。
- ・アスリートだけでなく観客も巻き込み、国を超えた一体感を生み出す。
- ・その熱気と興奮を、続いて開催されるパラリンピックへと引き継ぐ。

【パラリンピック閉会式】

- ・パラリンピックのフィナーレであるとともに、東京2020大会の全体を締めくくるフィナーレでもある。
- ・持続可能な社会に向けて、「和」の精神に基づき、自然や人間社会がバランスをとり、共存していく新しい時代のスタートラインとする。
- ・世界の調和と明るい未来への可能性を示し、子どもたちや若い世代への継承の場とする。

4つの式典の統一性

・4つの式典を繋げる

東京大会として統一感あるメッセージを伝えるとともに、オリンピック・パラリンピック精神がリオ2016大会から東京2020大会を経てパリ2024大会へも連続するという、その普遍性を意味付ける。

・オリンピックとパラリンピックを繋げる

オリンピックとパラリンピックの連続性が4つの式典を繋げるという発想の重要なポイントになる。オリンピックとパラリンピックそれぞれの意義を開会式・閉会式で伝えつつ、オリンピック開会式で生まれた盛り上がりパラリンピック閉会式まで途切れることなく続かせる。最終的には東京2020大会を次世代が活躍する場となり、新しい時代のスタートラインとしていきたい。

・開会式と閉会式の役割

開会式はこれから始まる競技の予告編としての役割もある。閉会式は感動の振り返りとメダリストに限らずオリンピズム・パラリンピズムを体現した人を称える場でもある。

4

TOKYO 2020

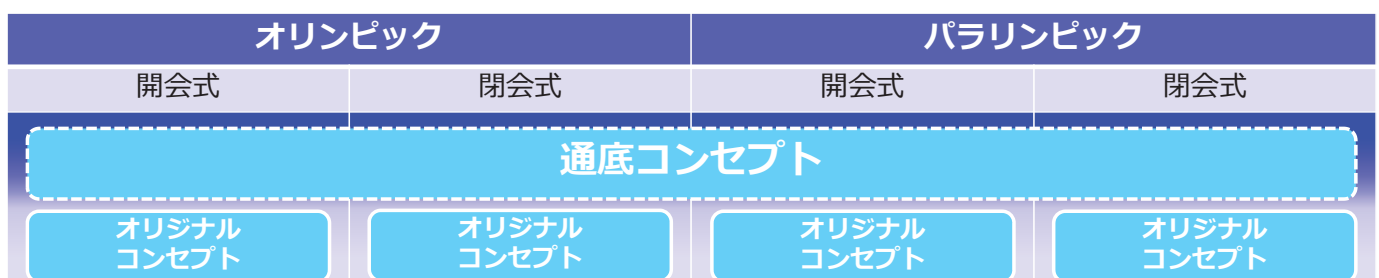
4式典を統一性あるものとするために

◆4式典で共通するものと各式典オリジナルのものを設定

- ・4式典を貫く通底のコンセプトを設定
- ・通底コンセプトを受け、それぞれの式典の担う固有の精神・ビジョンを解釈し独自のストーリー・具体的演出をつくり上げる。



各式典の独自性を担保しつつ、東京大会としての統一性と効率性を実現



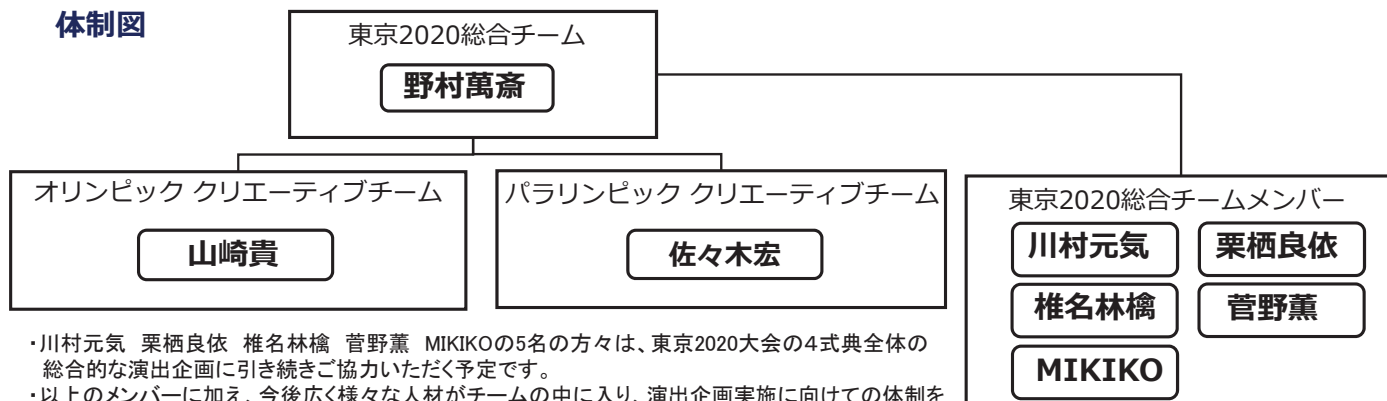
5

TOKYO 2020

4 式典の演出企画の実施体制

野村萬斎 チーフ・エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター（東京2020総合）
山崎貴 エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター（オリンピック担当）
佐々木宏 エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター（パラリンピック担当）
クリエイティブ・ディレクター
川村元気 栗栖良依 椎名林檎 菅野薫 MIKIKO （敬称略・五十音順で表記）

体制図



- ・川村元気 栗栖良依 椎名林檎 菅野薫 MIKIKOの5名の方々は、東京2020大会の4式典全体の総合的な演出企画に引き続きご協力いただく予定です。
- ・以上のメンバーに加え、今後広く様々な人材がチームの中に入り、演出企画実施に向けての体制を構築していく予定です。



仮設オーバーレイ実施設計・施工等発注（6競技会場（第3回）及び国技館）並びに選手村における発注について

2018年7月30日

1 決議事項

- ①富士スピードウェイ等6競技会場の仮設オーバーレイ実施設計・施工等（第3回）について一般競争入札として発注する。
- ②国技館の仮設オーバーレイ実施設計・施工等について特別契約として発注する。
- ③選手村の下記案件について、一般競争入札として発注する。
 1. メインダイニング実施設計・施工等
 2. チームプロセッシングセンター等整備工事

2-3 選手村の発注概要

NO	施設名	契約数	発注内容
1	メインダイニング	1件	一般競争入札 ・ 実施設計から施工および撤去・復旧を一括して発注
2	チームプロセッシングセンター等	1件	一般競争入札 ・ 改修工事および撤去・復旧の発注

【スケジュール（予定）】

○メインダイニング ・実施設計・工事： 2018年11月～2020年 4月
・撤去・復旧： 2020年 9月～2021年 3月

○チームプロセッシングセンター等 ・改修工事： 2018年11月～2019年 9月
・撤去・復旧： 2020年10月～2021年 3月



選手村内における飲食提供業務委託事業者の選定について

2018年07月30日

1 決議事項

選手村内における飲食提供業務の事業者を一般競争入札（総合評価方式）にて選定することについて、御承認いただきたい。

2 業務の目的

(1) 選手村運営期間中の各国・地域選手及び選手団関係者等に対する、オリンピック・パラリンピック競技大会における特殊事項（多様性への配慮、マーケティング要件、セキュリティ要件等）を踏まえた飲食の提供を目的とする。

(2) 2018年3月に公表した「飲食提供に係る基本戦略」の内容に基づき、食品の安全衛生、選手への栄養、持続可能性、日本の食文化発信等の各種配慮事項を達成し、参加選手が競技での自己ベストを達成できるための飲食提供実現を目的とする。



TOKYO 2020

3 委託の概要

(1) 件名

東京2020大会における選手村内選手及び選手団等に対する
飲食提供業務委託

(2) 主な委託内容

選手村内メインダイニング、カジュアルダイニング、クラブ&ゴー及び
スタッフダイニング等における飲食提供業務を大量調理の実績がある
事業者に委託

(3) 予定契約期間

2018年10月～2020年12月

(4) 予定調達方式

一般競争入札（総合評価方式）

(5) 主な配慮事項

- ① カジュアルダイニングを中心とした日本の食文化の発信
- ② 宗教（ハラール等）、食習慣等の多様性への配慮
- ③ 衛生管理の徹底による食中毒の未然防止
- ④ スポーツ栄養に基づく食事の提供

TOKYO 2020

4 選手村内における主な飲食提供内容の一覧

	メインダイニング	カジュアルダイニング	Grab&ゴー	スタッフダイニング
提供内容	<ul style="list-style-type: none"> 選手団へ飲食を無償提供する拠点 過去大会と同等レベルの食事を提供 	<ul style="list-style-type: none"> 日本食や地域特産物を活用した食事の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 時間の無い選手及び選手団役員がテイクアウトできる軽食等を提供 	<ul style="list-style-type: none"> 現場調理したホットミールを提供（スタッフの多様な食習慣にも配慮）
設置エリア	居住ゾーン	居住ゾーン	居住ゾーン	居住ゾーン
主要な利用者	各国地域選手及び選手団	各国地域選手及び選手団	各国地域選手及び選手団	スタッフ
席数	4,500席	400席	-	800席
1日最大食数想定	45,000食/日	3,000食/日	1,500食/日	10,000食/日
オープン時間（想定）	24時間	午前6時～午後9時	午前7時～午後2時 （競技スケジュールに合わせ、柔軟に対応）	朝食、昼食、夕食、深夜食に時間帯を分けてオープン

TOKYO 2020

5 委託事業者の選定スケジュール（予定）

NO	項目	期間等（予定）
1	案件公示	8月3日
2	入札説明会の実施	8月10日
3	企画提案等受付期間	8月28日から9月18日まで
4	企画提案審査	9月19日から9月20日まで
5	審査結果通知（候補事業者の決定）	9月21日
6	最終審査	9月25日から10月1日
7	審査結果通知	10月初旬までに通知
8	本契約の締結	10月末頃

TOKYO 2020



東京2020 第27回理事会 資料

報告事項

資料2-1 チケット販売の概要について

資料2-2 オリンピック競技日程（セッションスケジュール）について

資料2-3 マスコットデビュー報告及び2年前イベントについて

資料2-4 TOKYO2020 大会資料継承プロジェクトについて



チケット販売の概要について

2018年07月30日

①プライシングについて

※会場計画、競技スケジュール、各競技団体との調整等により変更の可能性あり

【オリンピック】7月18日IOC理事会で承認され、7月20日に発表

オリンピック 一般チケット

競技の一般チケット価格は、2,500円～130,000円

開閉会式の一般チケット価格は、12,000円～300,000円

※パラリンピックのプライシングについては、IPCに承認され、8月下旬に発表予定

企画や施策

2,020円企画チケット

- 子ども、ご年配の方、障がい者を含む家族やグループ向けチケットの実施
- オリパラ合わせて100万人以上の規模の学校連携プログラムの実施

観戦チケットに飲食サービスなどの付加価値をつけたホスピタリティプログラムの実施

車いすユーザー向けチケットの実施

②Tokyo2020 会場内ホスピタリティプログラムの概要について

- 人気の高い観戦チケットに会場内の飲食サービス等の付加価値を付けて販売するプログラム
- このプログラムから得られる収益を基に、メリハリのある観戦チケット価格設定に貢献

- 販売対象：マーケティングパートナー、放送権者
一般（法人、個人）
- 対象会場：16会場（調整中の地方4会場を除く）
- 販売数（想定）：約68,000人～



- プログラムの運営方式：競争入札により選定した事業者に、運営権を有償付与
 - 運営費用や損益リスクは事業者が負担、事業者のリソース（経験、能力）を活用する手法
- 外部有識者を含む選定審査会を設置し、多面評価により公正に事業者を選定

2018年6月22日	提案依頼送付	2018年9月25日（予定）	選定審査会開催
2018年8月3日	提案提出期限	2018年10月初旬	事業者決定予定



オリンピック競技日程（セッションスケジュール）について

2018年07月30日

セッションスケジュールのポイント

- **17日間のエキサイティングなスケジュール**
史上最多33競技339種目を42の競技会場で実施。
- **オールジャパン**
東京以外の広い範囲での競技が行われ、より多くの方々に大会の熱気を感じて頂く。
- **世界の人々へ**
放送を通じて国内外のオーディエンスに競技の魅力を伝え、大会の感動を伝えるスケジュール。

セッションスケジュールの構成

- **大会序盤**
 - Day -2 : ソフトボール（福島）、サッカー予選（札幌・宮城）
 - Day 0 : アーチェリー、ボート（開会式当日の競技）
 - Day 1 : 8時30分の射撃（ライフル）よりスタート。
バドミントン、体操競技、柔道、卓球、テニスなどの人気競技が実施される。
11時開始の自転車ロード（東京～富士山麓。雄大な地形）
- **東京大会の特徴（若者に人気のある競技を大会を通して実施）**
 - 追加競技：野球・ソフトボール、空手、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィン
 - 新種目：バスケットボール3x3、BMXフリースタイル
- **大会の興奮が凝縮された週末**
 - 8月1日（土）スーパーサタデー。女子ラグビー決勝、柔道混合団体、トライアスロン混合リレー、射撃（クレー）混合トラップ団体
 - 8月2日（日）女子マラソン、フェンシング、テニスの最終日

セッションスケジュールの構成

○大会後半に向けた盛り上がりの醸成

空手、レスリングなどの人気競技。サッカーやバスケットボール、バレーボールなどの団体競技の準決勝・決勝・陸上競技（Day 7～Day16）の開始。
Day 16：男子マラソン（大会最終日）

策定にあたっての指針

○アスリートファースト

男女マラソン、男子50km競歩、トライアスロンなど開始時間前倒し。

○人気競技のバランス

大会を通した人気競技の配置（前半：柔道 後半：レスリング、空手）

○ジェンダーバランス

バスケットボール、ラグビー、バレーボールなどの決勝順の変更（男子⇒女子）

○円滑なオペレーション

バスケットボール、ビーチバレーボール、バレーボールなどの終電対応

その他

- ・セッションスケジュールの決定により、大会運営計画のさらなる具体化が可能になり、大会準備がより一層加速
- ・大会本番に向けたセッションスケジュール更新の可能性
- ・今後は2019年春のチケット販売開始に向けてイベントスケジュールを策定



マスコットデビュー報告及び2年前イベントについて

2 Years to Go! 全体像

20187月

8月

9月



① 「奇跡をつくる、一人になろう。」チケットID登録キャンペーン

➤ 期間：2018年7月20日～2019年3月末日

➤ 登録特典（応募期間7/20～9/6、抽選）

TOKYO 2020 事前視察ツアー 5組10名

東京2020公式ライセンス商品 50名

➤ 今後の流れ

8月 パラリンピックチケット価格帯発表

2019年春 オリンピックチケット販売開始

2019年夏 パラリンピックチケット販売開始

20日発表イベント



デザイン



TOKYO 2020

② マスコットプロフィール

東京2020オリンピックマスコット



ミライトワ
MIRAITOWA

東京2020オリンピックマスコットは、大会エンブレムと同じ藍色の市松模様を頭部とボディにあしらっています。コンセプトは温故知新。温故知新とは日本の伝統的なことわざで、昔のことをよく学び、そこから新しい知識や道理を得ることを言います。そのコンセプト通り、伝統を重んじる古風な面と最先端の情報に精通する鋭い面をあわせ持っています。正義感が強く、運動神経もバツグン。特技はどんな場所にも瞬間移動できることです。

○名前の由来

ミライトワという名前は、「未来」と「永遠（とわ）」というふたつの言葉を結びつけて生まれました。名前に込められたのは、素晴らしい未来を永遠にという願い。東京2020大会を通じて、世界の人々の心に、希望に満ちた未来をいつまでも輝かせます。

東京2020パラリンピックマスコット



ソメイティ
SOMEITY

東京2020パラリンピックマスコットは、桜の触角と超能力を持つクールなキャラクター。顔の両サイドにある桜の触角でテレパシーを送受信しています。また、市松模様のマントで空を飛ぶことができます。普段は物静かですが、いざとなると誰よりもバワフル。超人的パワーを発揮するパラリンピックアスリートを体現する存在です。凛とした内面の強さと自然を愛する優しさをあわせ持っています。超能力を使って石や風と話したり、見るだけで物を動かすこともできます。

○名前の由来

ソメイティという名前は、桜を代表する「ソメイヨシノ」と非常に力強いという意味の「so mighty」から生まれました。桜の触角を持ち、驚きの強さを見せるソメイティ。東京2020大会を通じて、桜を愛する日本の心とパラリンピックアスリートの素晴らしい印象づけます。

TOKYO 2020

② マスコットデビュー

22日デビューイベント 場所：東京ミッドタウン日比谷
主催：東京都／公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会



➤ **来場者数：6752名**

※デビューイベントに加え、水上パレード、マスコットハウス初日来場者含む

➤ **メディアのとりあげ**

・テレビ・新聞・ウェブなど合わせて 110社以上

※会場キャパシティの都合で各系列局のカメラ数を予め制限

・露出 (テレビ)86件 (新聞)19件 (Web)1033件

東京2020水上パレード
(浅草〜お台場)



主催：東京都／公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

東京2020マスコットハウス
(東京ミッドタウン日比谷) ※9/6までオープン



東京2020マスコット公式ライセンス商品



TOKYO 2020

③ オリンピック2年前カウントダウンイベント

主催：東京都／公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

➤ **日時：2018年7月24日 14:00～20:00**

➤ **実施場所：東京スカイツリータウン®**

➤ **来場者数：約4万人**

➤ **会場関連自治体ブース出展：8道県**

➤ **パートナーブース出展：15社**

➤ **全国ライトアップ：全国15箇所**

➤ **メディアのとりあげ (7月25日時点)：**

○社数 120社以上 テレビ・新聞・ウェブなどの合計

※会場キャパシティの都合で、各社1台にカメラ数を制限

○露出

テレビ 45番組 新聞 20紙 Web 252件



フォトセッション



提灯パレード

競技体験コーナー



東京五輪音頭-2020- (フィナーレ)



マスコットによるステージ演出



※パラリンピック2年前イベントは、8/25実施予定

TOKYO 2020

④ 会場関連自治体・パートナー連携

会場関連自治体連携

会場関連自治体イベント



【埼玉県】7/21-22 埼玉で開催！2年前イベント



【千葉県／一宮町】7/24@釣ヶ崎海岸
CHIBAにオリンピック・パラリンピックが
やってくる！

その他20の道県市町が
2年前イベント実施予定

パートナー連携

日本生命 みんなの2020全国キャラバン
(東京2020組織委員会委共催) 出発式



東京2020
Let's 55
with 日本生命



マスコットトレイン



TOKYO 2020

⑤ デジタルコミュニケーション

特設WEBサイト開設

2年前



チケット



マスコット



ボランティア



公式SNS

■投稿例 ※媒体名 フォロワー数/20~24日の4日間のフォロワー増加数

Facebook 58万/+7,311



Twitter(日) 26万/+2,296
Twitter(英) 13万/+1,714

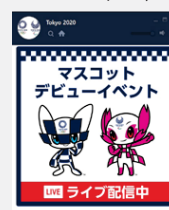


22日マスコットネーミング発表
TW (日) 150万リーチ
TW (英) 54万リーチ

Instagram 7万/+約2,000



LINE 11万/+1,841



Weibo 1,700/+1,700

24日初投稿実施
初回投稿のPV…98.8万



TOKYO 2020



TOKYO2020 大会資料継承プロジェクトについて

Tokyo2020大会資料 継承プロジェクトについて

1. 大会資料継承プロジェクトとは

- IOC、IPCへの大会資料継承。
- 大会後に大会資料を日本国内で保存・管理・公開・利活用するため、「資料管理団体」を設置し、散逸や商業利用を防ぐ。
- IOCを含む関係当事者で「資産アーカイブ協定」を締結。

※ 資料管理団体は、他の機関と再委託契約を結ぶことで、資料を分散保管できる。

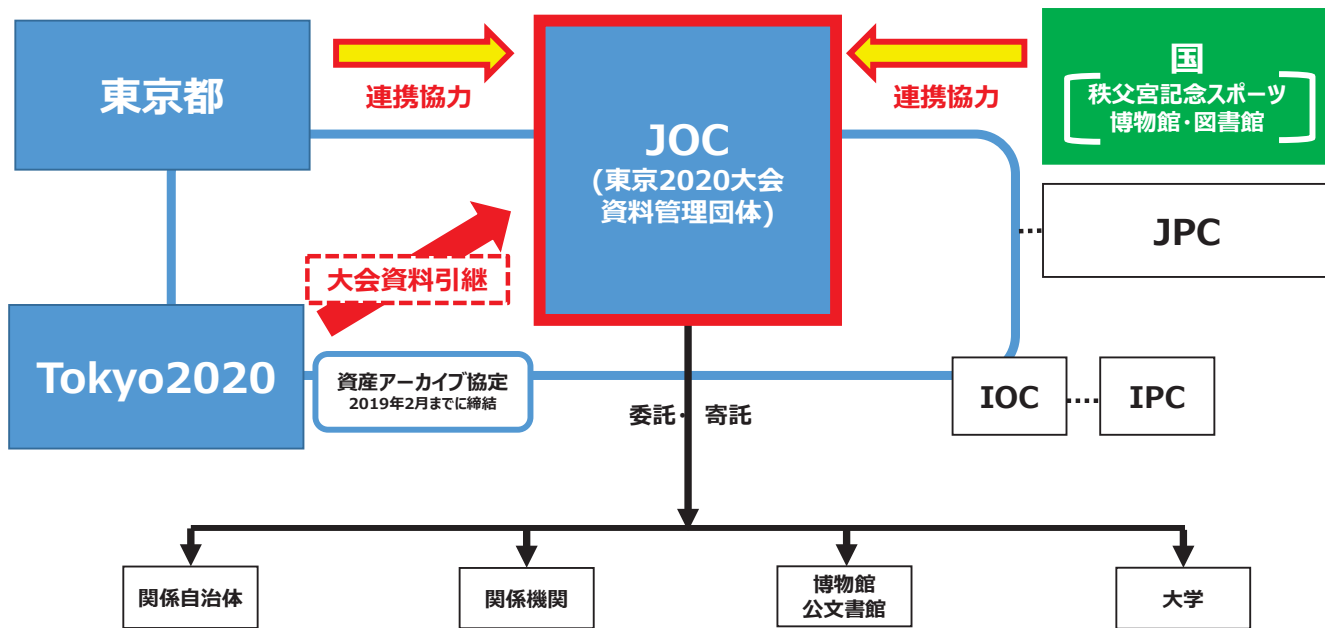
2. 東京2020大会の取組みの現状

- JOC、東京都、大会組織委員会、および国（内閣官房オリンピック・パラリンピック事務局、スポーツ庁）、JPC同席の会議を開催し、大会資料の内容や管理方法について情報交換ならびに意見調整を推進中。



- JOC、東京都が連携し、国やJPCの協力も得ながら、JOCが資料管理団体の役割を果たす。
- 2019年2月に、関係当事者間で資産アーカイブ協定を締結予定。

Tokyo2020大会資料 継承プロジェクトの概要





東京2020 第27回理事会 資料

配布資料

資料3-1 パラリンピック競技日程策定とIPC理事会報告について

資料3-2 輸送ルート等の検討状況について

資料3-3 IPC理事会、第6回IOC調整委員会会議及びIOC理事会

資料3-4 アクション&レガシープラン2018の策定

セッションスケジュールのIPC理事会報告に向けた提出について

競技日程策定にあたって考慮した点

- **アスリートファースト**
⇒選手の習慣的行動や移動時間、暑さ対策を考慮
 - **競技の人気**
⇒メダル獲得日を分散すると共に、競技の人気を考慮し、開幕から閉幕まで盛り上げを持続
 - **ジェンダーバランス**
⇒男女の種目バランスを考慮
 - **IF規則及び規定**
⇒IF規則及び競技フォーマットに従う
 - **オペレーション**
⇒効率的な会場運営を考慮
 - **ライツホルダー**
⇒放送権者の意向を考慮
- ※上記考慮した点に加え、アクセシビリティ等、パラリンピック特有の事項も考慮
- セッションスケジュールとは、競技ごとに、各セッションの開始時間と終了時間が記載されたチケット単位のスケジュールのこと。
 - 承認されたセッションスケジュールが今後のIPC理事会において報告される。

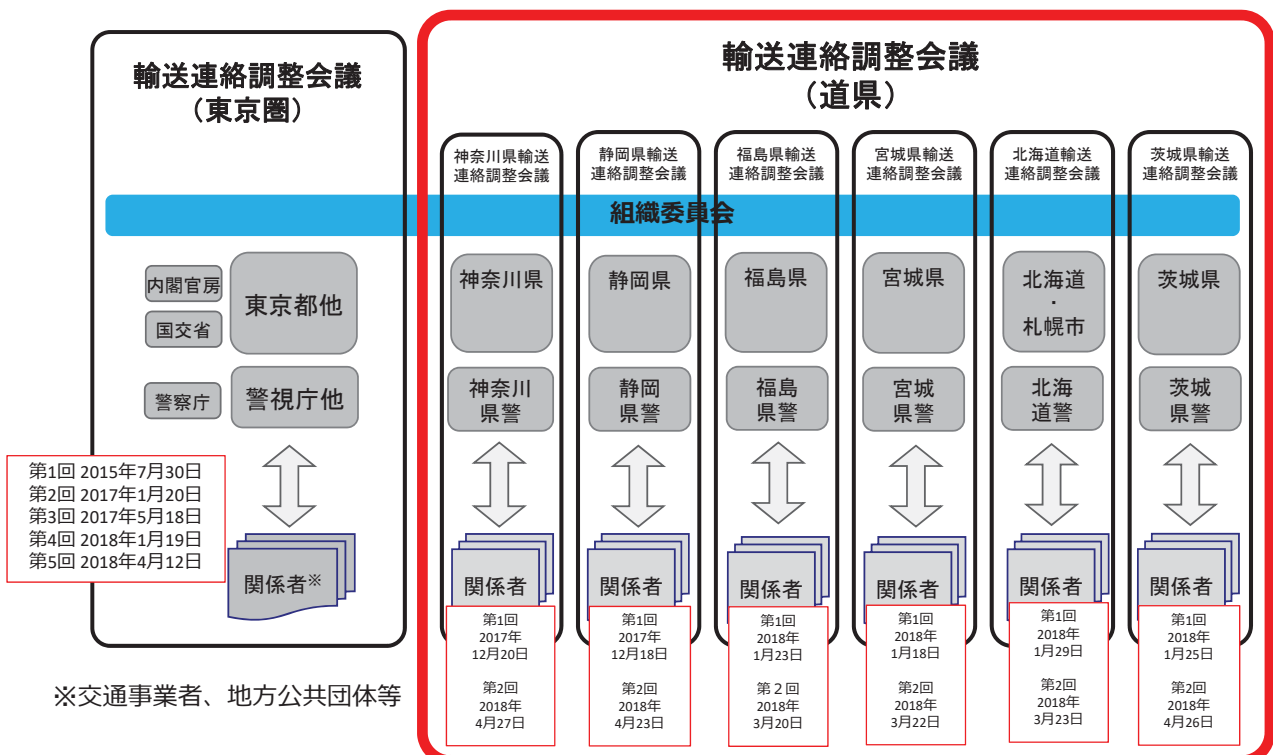


輸送ルート等の検討状況について

2018年07月30日

1 道県の輸送検討体制について

- 輸送局では、会場を有する道県ごとに、輸送連絡調整会議を設置し、輸送ルート等を関係機関とともに検討・調整中

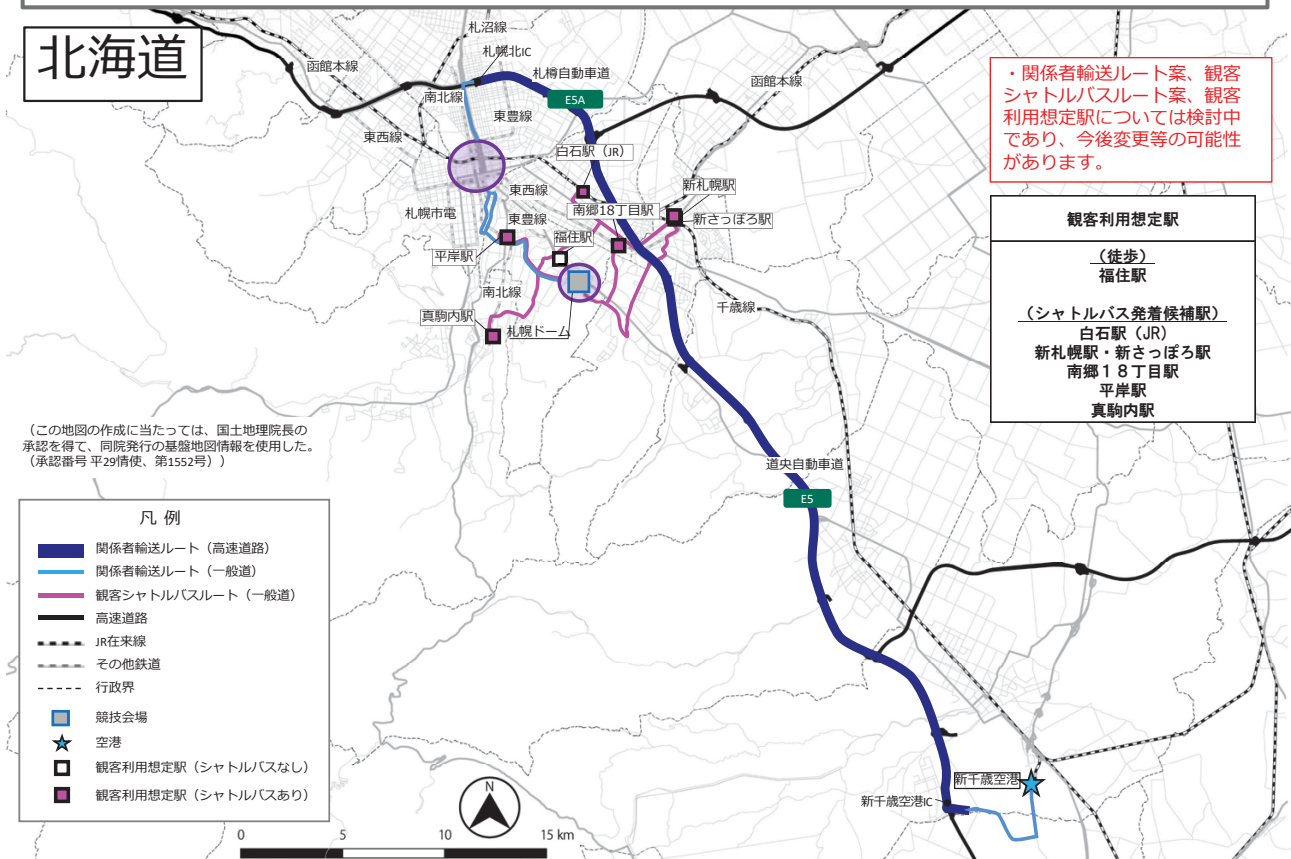


2 道県輸送連絡調整会議構成メンバー（福島県の例）

構成団体	役職	備考
福島県 企画調整部文化スポーツ局	次長	座長
(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	輸送企画部長	座長
福島県 土木部	主として 課長級	
福島県警察本部 警務部・交通部・警備部・福島警察署		
福島市 市長公室・都市政策部		
福島市消防本部		
国土交通省東北地方整備局		
国土交通省東北運輸局		
東日本高速道路(株) 東北支社		
東日本旅客鉄道(株) 仙台支社		
福島交通(株)		
阿武隈急行(株)		
(公社) 福島県バス協会		
(一社) 福島県タクシー協会県北支部		
(公社) 福島県トラック協会		

3 各道県の輸送ルート案について

札幌ドーム（サッカー） 関係者輸送ルート案・観客シャトルバスルート案 (2018年3月発表)



宮城スタジアム（サッカー）

関係者輸送ルート案・観客シャトルバスルート案

（2018年3月発表）

宮城県

・関係者輸送ルート案、観客シャトルバスルート案、観客利用想定駅については検討中であり、今後変更等の可能性があります。
 ・パーク&バスライドの実施の可能性については検討中です。

- 凡例
- 関係者輸送ルート（高速道路）
 - 関係者輸送ルート（一般道）
 - 観客シャトルバスルート（高速道路）
 - 観客シャトルバスルート（一般道）
 - 高速道路
 - 東北新幹線
 - JR在来線
 - その他鉄道
 - 行政界
 - 競技会場
 - 空港
 - 観客利用想定駅



観客利用想定駅
 （シャトルバス発着候補駅）
 荒井駅、泉中央駅、仙台駅、
 多賀城駅、利府駅

（この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用した。（承認番号 平29情使、第1552号）

福島あづま球場（野球・ソフトボール）

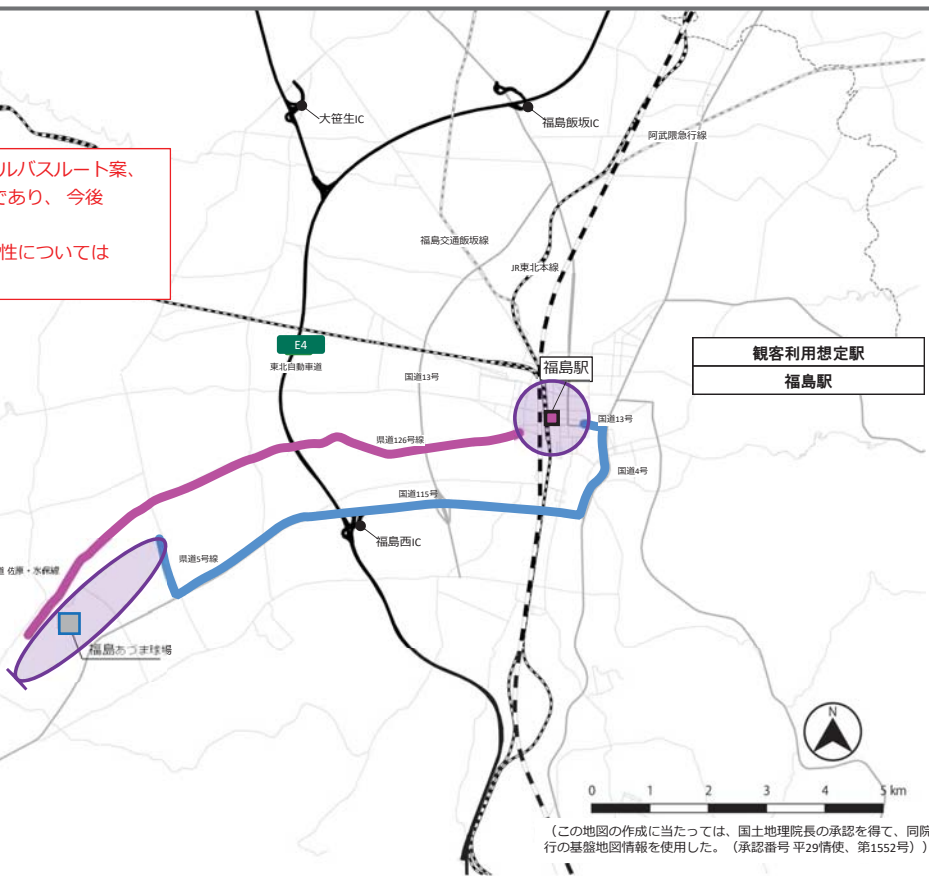
関係者輸送ルート案・観客シャトルバスルート案

（2018年3月発表）

福島県

・関係者輸送ルート案、観客シャトルバスルート案、観客利用想定駅については検討中であり、今後変更等の可能性があります。
 ・パーク&バスライドの実施の可能性については検討中です。

- 凡例
- 関係者輸送ルート（一般道）
 - 観客シャトルバスルート（一般道）
 - 高速道路
 - 東北新幹線
 - JR在来線
 - その他鉄道
 - 行政界
 - 競技会場
 - 観客利用想定駅



観客利用想定駅
 福島駅

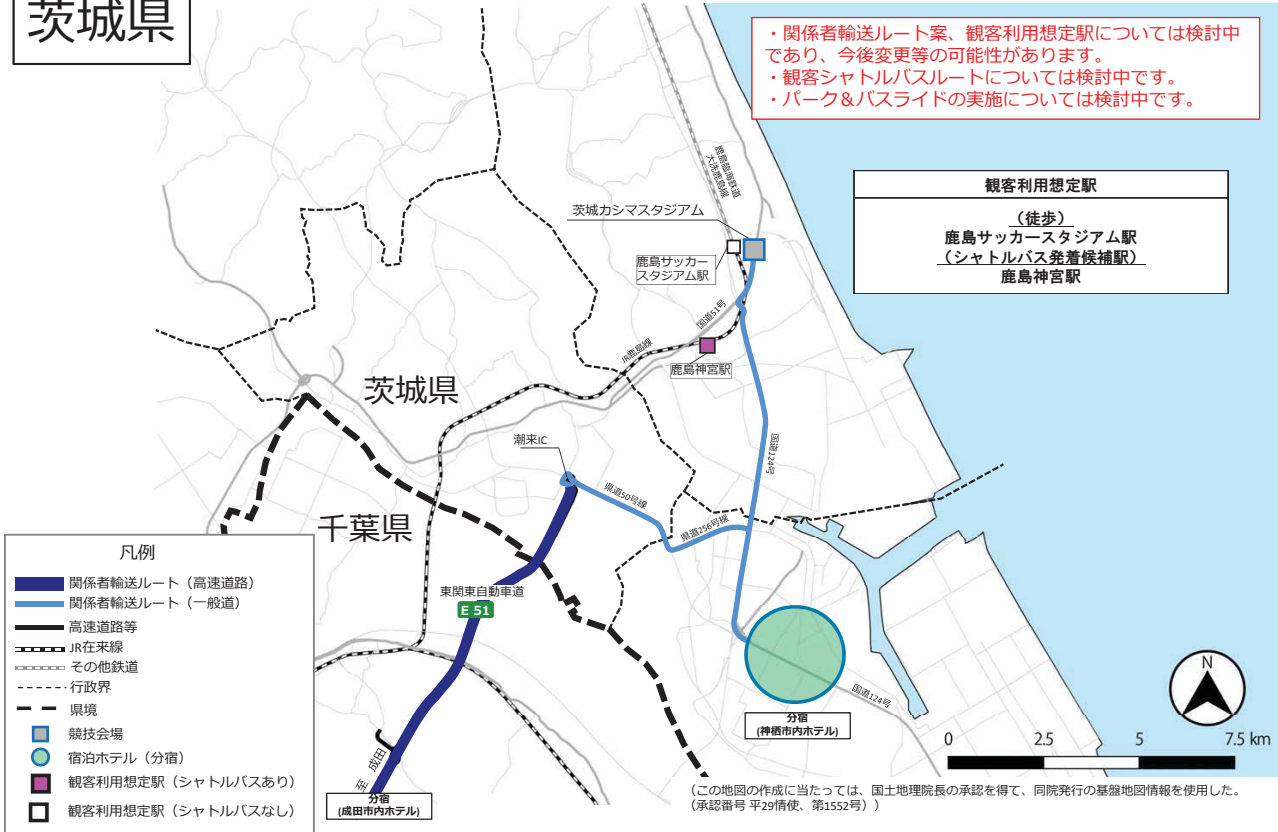
（この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用した。（承認番号 平29情使、第1552号）

茨城カシマスタジアム（サッカー） 関係者輸送ルート案

(2018年4月発表)

茨城県

・関係者輸送ルート案、観客利用想定駅については検討中であり、今後変更等の可能性があります。
 ・観客シャトルバスルートについては検討中です。
 ・パーク&バスライドの実施については検討中です。



観客利用想定駅
 (徒歩)
 鹿島サッカースタジアム駅
 (シャトルバス発着候補駅)
 鹿島神宮駅

- 凡例
- 関係者輸送ルート (高速道路)
 - 関係者輸送ルート (一般道)
 - 高速道路等
 - JR在来線
 - その他鉄道
 - 行政界
 - 県境
 - 競技会場
 - 宿泊ホテル (分宿)
 - 観客利用想定駅 (シャトルバスあり)
 - 観客利用想定駅 (シャトルバスなし)

(この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用した。(承認番号 平29情使、第1552号))

江の島ヨットハーバー（セーリング） 関係者輸送ルート案

(2018年4月発表)

神奈川県

・関係者輸送ルート案、観客利用想定駅については検討中であり、今後変更等の可能性があります。
 ・関係者ルートのうち主に選手を輸送するための大会ルート案を示しており、今後メディア等を輸送するための大会ルートを追加の予定です。



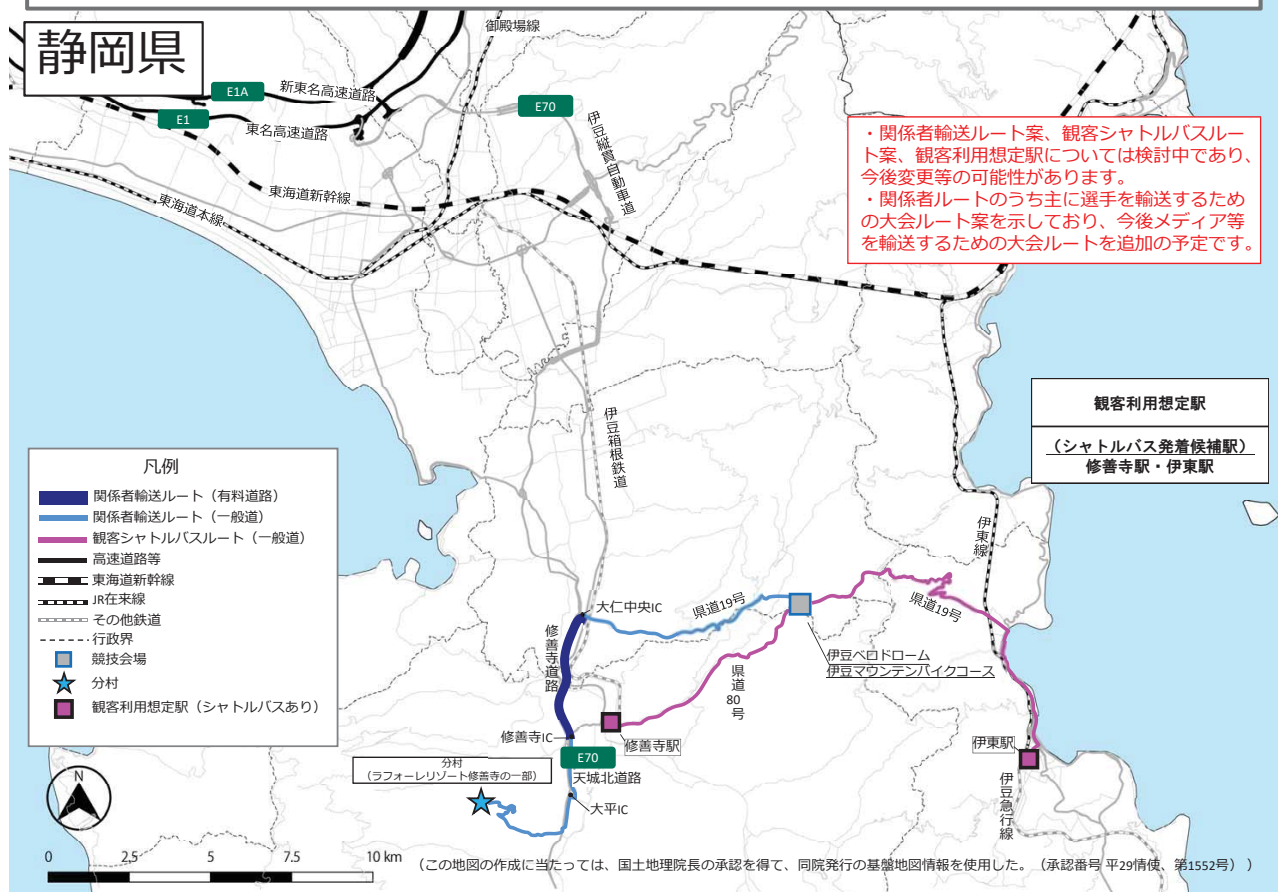
観客利用想定駅 (徒歩)
 片瀬江ノ島駅

- 凡例
- 関係者輸送ルート (一般道)
 - 高速道路等
 - 東海道新幹線
 - JR在来線
 - その他鉄道
 - 行政界
 - 競技会場
 - 分村
 - 観客利用想定駅 (シャトルバスなし)

※ 国土地理院
 (この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用した。(承認番号 平29情使、第1552号))

伊豆ペドローム（自転車競技：トラック）、伊豆マウンテンバイクコース（自転車競技：マウンテンバイク）
関係者輸送ルート案・観客シャトルバスルート案

(2018年4月発表)



4 今後のスケジュールについて

	2017年度	2018年度				2019年度	2020年度
		4~6	7~9	10~12	1~3		
輸送運営計画	☆ V1	作成・関係機関等調整				☆ V2(案) 調整	☆ V2
輸送連絡調整会議 (東京圏)	● 第4回 ・V1(案) 等	● 第5回 ・輸送ルート案 ・観客利用想定駅 ・TDM基本方針案 等	● 第6回		→ 適宜開催		
輸送連絡調整会議 (道県)	⇄ 立上げ	⇄ 第2回 ・輸送ルート案 ・観客利用想定駅 等	⇄ 第3回 ・進捗状況 ・輸送ルート案 (追加・更新) 等		→ 適宜開催		

東京2020大会



IPC理事会、第6回IOC調整委員会会議及びIOC理事会

2018年7月30日

(1) IPC理事会概要

- 1 開催日 2018年6月22日（金）～24日（日）
※ 東京のプレゼンは6月23日
- 2 場 所 ボン（ドイツ）
- 3 出席者
IPC側 アンドリュー・パーソンズ会長、
（チャビ）ハビエル・ゴンザレスCEO、山脇理事
東京側 布村副事務総長
- 4 内 容 東京大会の進捗についてのプレゼン等
人材管理／組織委員会全体の進捗状況／財務／宿泊／
輸送／コミュニケーション&エンゲージメント／
コマーシャル&放送

(2) 第6回IOC調整委員会会議の概要

1 開催日 2018年7月10日(火)～12日(木)

2 場所 虎ノ門オフィス

3 出席者

IOC側 コーツIOC調整委員会委員長、ギラディ同副委員長、同委員、
スタッフ ほか

東京側 森会長、遠藤会長代行、各副会長、
武藤事務総長、
各副事務総長、
東京都、政府、JOC、JPC

ほか



TOKYO 2020

(2) 第6回IOC調整委員会会議の概要 (続き)

4 内容 東京大会の進捗についてのプレゼン及び質疑応答 等

<7月10日(火)>

○オープニング全体会議

ニューノーム (IOCプレゼン) / 人材管理 / 運営実践準備管理 テストイベント /
持続可能性 / 会場 / アンチ・ドーピング / エンゲージメント & コミュニケーション

○会場視察

<7月11日(水)>

○分科会

アーバンクラスター & サーフィンフェスティバル / パラリンピック競技大会 /
アスリート & NOC / マーケティングパートナー / スポーツ & IF / 観客 /
オリンピックファミリー / メディア

<7月12日(木)>

○分科会

会場 (サッカー会場)

○クロージング全体会議

TOKYO 2020

コーツ委員長からのコメント（要旨）

- 計画から準備の段階、そして運営の段階に移行しており、一連のトピックをカバーする、大変生産的なミーティングであった。
- いくつかのNOC、トップパートナーも参加し、大いに会議に貢献してくれた。東京2020大会の進展などを見て、感触をつかんでもらうために、パリ2024組織委員会も参加してくれた。
- 11月には国内オリンピック委員会連合（ANOC）の会合がある。IOC理事会、調整委員会会議もあり忙しい時期となるが、組織委員会にとって良い経験となるであろう。



TOKYO 2020

（3）IOC理事会概要

- 1 開催日 2018年7月18日（水）、19日（木）
※ 東京のプレゼンは7月18日
- 2 場 所 ローザンヌ（スイス）
- 3 出席者
IOC側 バッハ会長、コーツIOC調整委員会委員長、IOC理事
東京側 森会長、
武藤事務総長、
竹田副会長/IOC委員、中村GDO、
村里国際局長、高谷SP

TOKYO 2020

(3) IOC理事会概要 (続き)

4 内 容 東京大会の進捗についてのプレゼン及び質疑応答 等
スポーツ／チケット価格／会場整備状況／
持続可能性に配慮した運営計画第二版／
ボランティア9月募集／大会時を見据えた組織体制 等

5 その他

以下の内容についてIOCに提案し、承認を得た。

- ・東京2020オリンピック競技大会のセッションスケジュール

 - ※各競技、チケット単位のセッションの開始時間と終了時間を
記載したもの

- ・チケット価格

全体概要

		概要	
Part A	本文	第一章：はじめに	アクション&レガシープランの全体像
		第二章：スポーツ・健康	各章の基本的な構成 ・レガシー：2020年以降を見据え、何を後世に残すべきか ・アクション：実施されたアクション及び、レガシー創出の為に実行すべきアクション（主な例）
		第三章：街づくり・持続可能性	
		第四章：文化・教育	
		第五章：経済・テクノロジー	
		第六章：復興・オールジャパン・世界への発信	
		第七章：東京2020参画プログラム	東京2020参画プログラムについて記述
		第八章：東京2020フェスティバル	東京2020フェスティバルについて記述
Part B	一覧表	アクション一覧	政府、東京都、被災3県、JOC、JPC、経済界、組織委員会等のアクション一覧を記載
Part C	一覧表	参画プログラム認証事業一覧	東京2020参画プログラムにおいて認証された事業の事例を紹介

各パートの更新について

- レガシーコンセプト等基本的な方向性に変更がないことから、アクション一覧の時点更新を行い、本文は、事実の修正及びアクション一覧の修正に伴う修正を行う。ただし、第七章・第八章は現状に合わせて更新を行う。
- 参画プログラム認証事業一覧については、参画プログラム特設サイトへの掲載をもってかえる。



意見交換に当たっての取組紹介

(1) 被災地と連携した取組

- ①東京2020オリンピック聖火リレー
- ②「野球・ソフトボール」福島あづま球場及び「サッカー」宮城スタジアムについて
- ③復興のモニュメント（仮称）
- ④東京2020 NIPPONフェスティバル ～東北復興をテーマとする文化プログラム～
- ⑤WPB公式レセプションにおける被災3県食材の提供
- ⑥その他これまで行ってきた取組

①東京2020オリンピック聖火リレー

- ・オリンピック聖火リレーの出発地を福島県とするとともに、東日本大震災の被災3県（岩手、宮城、福島）については、日数の配慮をし、各県3日を設定
- ・聖火リレー開催に先立ち、ギリシャで採火した聖火を「復興の火」として、被災3県で順次展示

(参考) 東京2020オリンピック聖火リレー 各都道府県 実施日一覧

都道府県名	日 程	都道府県名	日 程	都道府県名	日 程
① 福島県	3/26(木)～3/28(土)	①7 鹿児島県	4/28(火)～4/29(水)	③3 富山県	6/3(水)～6/4(木)
② 栃木県	3/29(日)～3/30(月)	①8 沖縄県	5/2(土)～5/3(日)	③4 新潟県	6/5(金)～6/6(土)
③ 群馬県	3/31(火)～4/1(水)	①9 熊本県	5/6(水)～5/7(木)	③5 山形県	6/7(日)～6/8(月)
④ 長野県	4/2(木)～4/3(金)	②0 長崎県	5/8(金)～5/9(土)	③6 秋田県	6/9(火)～6/10(水)
⑤ 岐阜県	4/4(土)～4/5(日)	②1 佐賀県	5/10(日)～5/11(月)	③7 青森県	6/11(木)～6/12(金)
⑥ 愛知県	4/6(月)～4/7(火)	②2 福岡県	5/12(火)～5/13(水)	③8 北海道	6/14(日)～6/15(月)
⑦ 三重県	4/8(水)～4/9(木)	②3 山口県	5/14(木)～5/15(金)	③9 岩手県	6/17(水)～6/19(金)
⑧ 和歌山県	4/10(金)～4/11(土)	②4 島根県	5/16(土)～5/17(日)	④0 宮城県	6/20(土)～6/22(月)
⑨ 奈良県	4/12(日)～4/13(月)	②5 広島県	5/18(月)～5/19(火)	④1 静岡県	6/24(水)～6/26(金)
⑩ 大阪府	4/14(火)～4/15(水)	②6 岡山県	5/20(水)～5/21(木)	④2 山梨県	6/27(土)～6/28(日)
⑪ 徳島県	4/16(木)～4/17(金)	②7 鳥取県	5/22(金)～5/23(土)	④3 神奈川県	6/29(月)～7/1(水)
⑫ 香川県	4/18(土)～4/19(日)	②8 兵庫県	5/24(日)～5/25(月)	④4 千葉県	7/2(木)～7/4(土)
⑬ 高知県	4/20(月)～4/21(火)	②9 京都府	5/26(火)～5/27(水)	④5 茨城県	7/5(日)～7/6(月)
⑭ 愛媛県	4/22(水)～4/23(木)	③0 滋賀県	5/28(木)～5/29(金)	④6 埼玉県	7/7(火)～7/9(木)
⑮ 大分県	4/24(金)～4/25(土)	③1 福井県	5/30(土)～5/31(日)	④7 東京都	7/10(金)～7/24(金)
⑯ 宮崎県	4/26(日)～4/27(月)	③2 石川県	6/1(月)～6/2(火)		

②-1 「野球・ソフトボール」 福島あづま球場について

■ 競技会場
福島あづま球場



所在地：福島県福島市佐原字神事場1番地

■ 収容人数
15,024名

■ 競技日程

野球

2020年7月29日(水) 12:00～
15:00

ソフトボール

2020年7月22日(水) 10:00～
12:00

※上記セッションスケジュールは、今後の調整で変更の可能性があります。

TOKYO 2020

②-2 「サッカー」 宮城スタジアムについて

■ 競技会場
宮城スタジアム



所在地：宮城県宮城郡利府町菅谷字館40-1

■ 収容人数
49,000名

■ 競技日程

女子

2020年7月22日(水) 16:30～21:30
7月25日(土) 16:30～21:30
7月28日(火) 16:30～21:30
7月31日(金) 18:00～21:00

男子

2020年7月29日(水) 16:30～21:30
8月 1日(土) 18:00～21:00

※上記セッションスケジュールは、10月に開催予定のFIFAの委員会で最終決定されるため、現時点では暫定的な位置づけ（イベントコンセプト）となっています。

TOKYO 2020

③復興のモニュメント（仮称）

コンセプト

「感謝・応援～支援への感謝や選手への応援を伝えたい～」

（被災地⇒世界）

「感謝・感動～応援への感謝やスポーツのもつ力を被災地に届ける～」

（世界⇒被災地）

概要

- ・上記コンセプトを示すモニュメントを制作
- ・被災地の中高生が、世界中から来るアスリートに向けて、応援のメッセージや震災の支援への感謝の言葉を記すメッセージを表す
- ・大会中、モニュメントを大会の関連施設（選手村等）に設置し、アスリートがサインを書く
- ・大会後は、レガシーとして被災三県に移設することを打診中

TOKYO 2020

④東京2020 NIPPONフェスティバル ～東北復興をテーマとする文化プログラム～

コンセプト

- 東北の人々と共に文化プログラムを創り上げ、東北の人々が2020年その時の感じている思いと姿を、国内外へと発信します。
- 東北の文化や芸術、歴史など、東北の魅力をアピールします。

2020年の展開を目指し、2018年から東北と連携し準備を開始。2020年には、東北を象徴する場所で特別な文化プログラムを実施し、人々からメッセージを集める。

東京2020大会直前には、東京においてメッセージを世界に発信。

2018年-2019年	2020年	
東北でのプログラム制作	東北でのプログラム (5月～7月頃)	東京でのプログラム (大会直前)
➤ 県の人々と連携しながらプログラムを制作	➤ <u>「世界へ発信するメッセージを集める場所」</u> ・ 県ごとに文化プログラム展開 ・ 東北絆まつりと連携	➤ <u>「集めたメッセージを発信する場所」</u> ・ 集大成としての文化プログラム ・ 世界への発信

TOKYO 2020

⑤ WPB公式レセプションにおける被災3県食材の提供

1 ワールドプレスブリーフィング概要

日時：2018年9月4日（火）～7日（金）

会場：東京ビッグサイト

参加者：国内外プレス・フォトグラファー、IF、NOC広報担当 約300名

目的：国内外のプレス、フォトグラファーに対し、東京2020大会の準備状況や提供予定のサービスに関する説明を通じて、大会取材に向けての信頼感を獲得すること

2 公式レセプション

主催：東京2020組織委員会（復興庁による御支援）

規模：WPB全体会議出席者及び被災3県関係者 約300名

被災3県食材：岩手県、宮城県、福島県の「3県のお米食べ比べ」、ColdやHotのプレート、デザートなどにも3県の代表的食材を使用

3 過去大会（Rio）の様子



プレゼンテーション



レセプション



ベニューツアー

TOKYO 2020

⑥-1 その他これまで行ってきた取組

大会を通じた取組例（東京都と共催）

リオから世界へ

フラッグハンドオーバーセレモニー

・東日本大震災の際に世界中の人々から差しのべられた支援への感謝の気持ちを発信



ジャパンハウスでの発信

・世界中から多くの人々が東北を訪れるきっかけとなり、また復興をより一層進める一助となるよう、元気を取り戻しつつある東北の現在の姿を世界の方々に知っていただくための映像やパネル等で紹介



リオから被災地へ

ライブサイト

- ・岩手県盛岡市(8/6,9/11)
- ・宮城県仙台市(8/13-14,9/15)
- ・福島県福島市(8/21-22,9/19)



フラッグツアー

- ・福島県 (2016.11.2)
- ・宮城県 (2017.2.9)
- ・岩手県 (2017.2.17)
- ・熊本県 (2017.4.26)



平昌から被災地へ

ライブサイト

- ・岩手県盛岡市(2/17)
- ・宮城県仙台市(2/18)
- ・福島県郡山市(2/24)
- ・熊本県熊本市(3/10)



TOKYO 2020

⑥-2その他これまで行ってきた取組

スポーツの力で被災地を応援

若手アスリート参画プロジェクト

被災地で行われたイベントにアスリートを派遣し、スポーツ等を通して、被災地の子どもたちとの交流を行った。



2015年5月（福島県いわき市）



2015年11月（福島県新地町）



2016年3月（宮城県石巻市）

被災地で実施されたNF競技大会との連携

被災地で行われるNFの競技大会と連携して、組織委員会がブースを設置し、現地での東京2020大会に向けた機運醸成を行った。



2018年7月 トライアスロン
（宮城県七ヶ浜町）



2018年6月 ソフトボール
（福島県福島市）



2018年7月 トライアスロン
（宮城県七ヶ浜町）

TOKYO 2020

⑥-3その他これまで行ってきた取組

被災地の食と文化を発信

第5回ioc調整委員会 公式夕食会

⇒2017年12月12日、組織委員会、東京都、復興庁で共催し、各県のご協力のもと、公式夕食会のメニューに被災地の食材を活用。また夕食会の前に行われたレセプションでは、各県のブースを設置し、地元産品の紹介を行った。



メニュー

- 前菜
わかめ豆腐（岩手） ちぢみほうれんそうとセリの黒胡麻和え（宮城） あんぼ柿チーズ（福島）・揚げ帆立真丈 翡翠銀杏串打ち
- お椀
会津地鶏お吸い物 つみれ団子・大根・占地・針柚子・胡椒
- お造り
ホタテ（岩手）・メカジキ（宮城）・サーモン（福島） あしらひ一式*
- ～東北三県牛肉3種の味わい～
フィレ肉のポワレ ポルトルージュソース
牛バラ肉の赤ワイン煮込み
牛ロース肉のグリエ 山椒風味の和風ソース
ハタケシメジ（岩手）・しいたけ（宮城）・エリンギ茸（福島）のポルトドレーズ
- 食事
ササニシキ（宮城）にぎり三貫（ホタテ（岩手）・クロソイ（宮城）・焼椎茸（福島））
ミニ焼きおにぎり（味噌） 出汁を添えて
- デザート
いちご（宮城）のムースリンゴ（岩手）とら・フランス（福島）のタルト*

TOKYO 2020

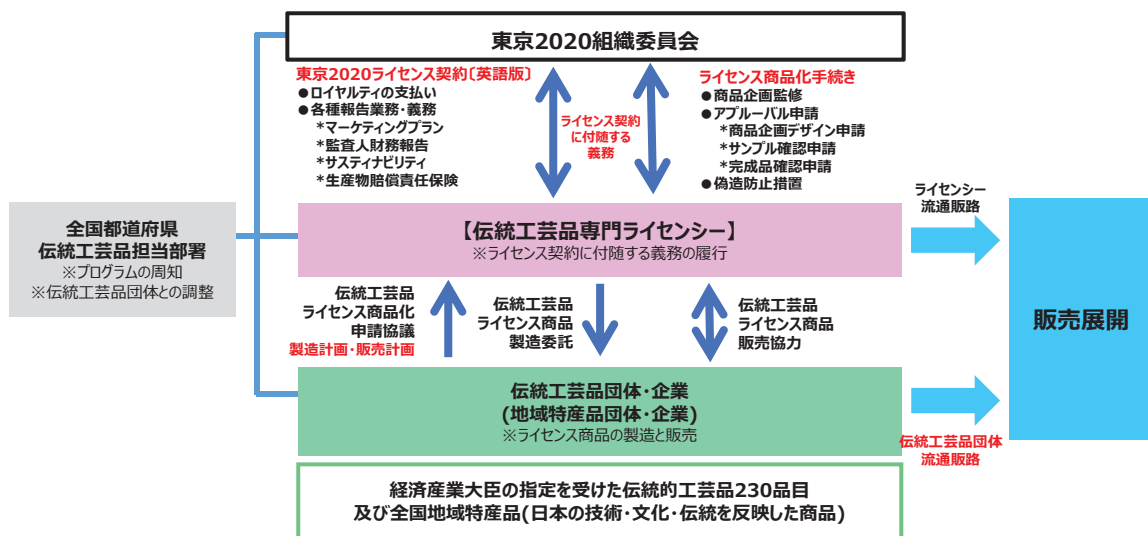


意見交換に当たっての取組紹介

(2) 被災地を含めた全国と連携した取組

- ⑦伝統工芸品 東京2020ライセンス商品化プログラム
- ⑧選手村等における飲食提供について
- ⑨日本の木材活用リレー ～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～

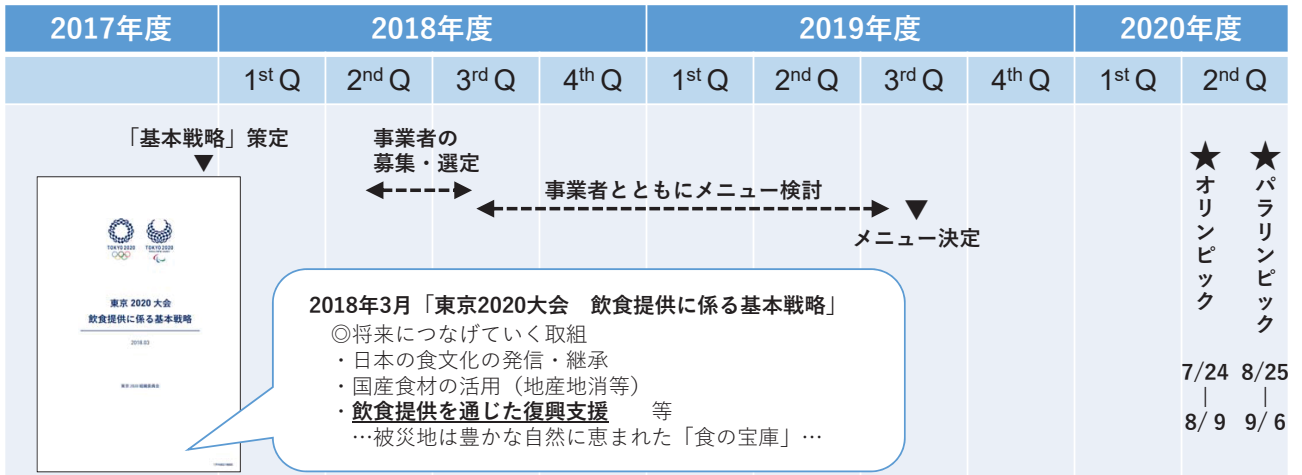
⑦伝統工芸品 東京2020ライセンス商品化プログラム



⑧選手村等における飲食提供について



	主要機能	提供内容	1日最大食数
選手村	メインダイニング	過去大会と同等レベルの食事	45,000食/日
	カジュアルダイニング	日本食や地域特産物を活用した食事	3,000食/日
	クラブ&ゴー	時間の無い選手や選手団役員がテイクアウトできる軽食等	1,500食/日
	スタッフダイニング	現場調理したホットミール ※スタッフの多様な食習慣にも配慮	10,000食/日



⑨日本の木材活用リレー ～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～

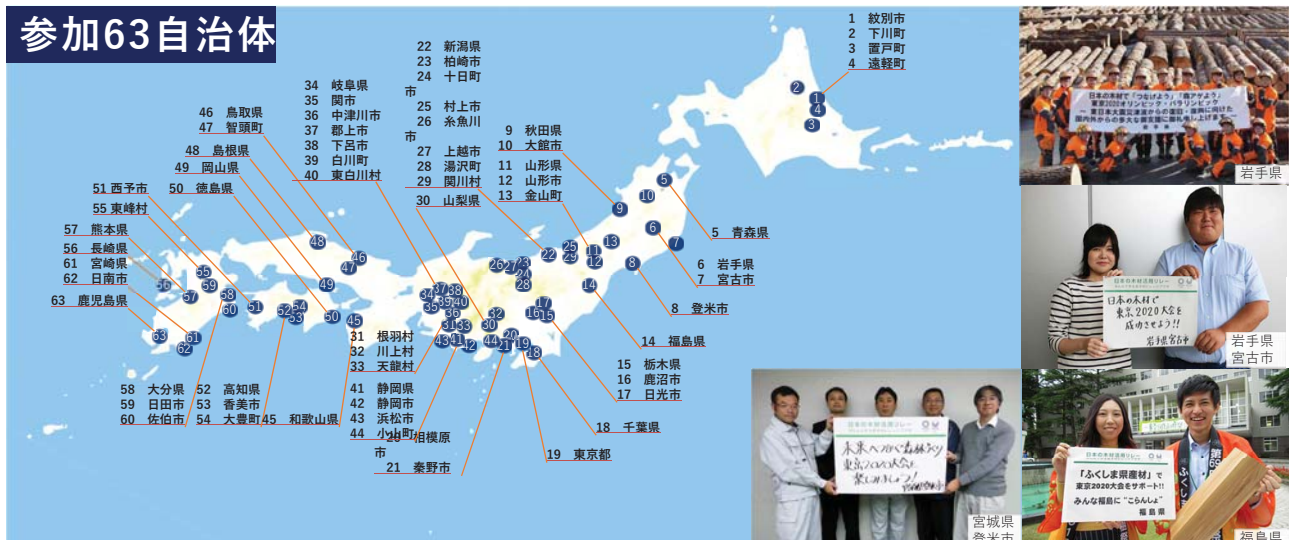


【2017年9月時点のイメージ図／©Tokyo 2020】

選手村ビレッジプラザ

- ・メディアを通して多くの人の目にふれる選手村の代表的な施設
- ・大会期間中の選手の生活を支える施設であり、チーム歓迎式典を行ったり、花屋・雑貨店等の店舗、カフェ、メディアセンター等が配置される
- ・認証を受けたオリンピック・パラリンピックファミリーや、メディア関係者、居住者の関係者が訪れる

参加63自治体



東京2020大会等を通じた 被災地復興支援事業について

東京都

東京都における復興支援の取組

■ 人的支援

これまでに延べ3万名を超える都職員を被災地に派遣し、被災地の復興事業を支援。今年度も、豊富な行政経験や専門技術を有する職員を派遣。



石巻市 新門脇地区
下水道雨水災害復旧事業

■ 都内避難者支援

約5千名の都内避難者に対し、応急仮設住宅への受入や相談拠点の運営、地域で行う交流会の支援、上下水道料金の減免などの取組を実施。



交流会の様子

■ 復興に向けた多様な支援

- 「ふくしま⇄東京キャンペーン」の展開
・ 民間団体等と連携して、都内各地で県産品販売と観光PRを実施
- 被災地応援ツアーの実施
・ 福島県への旅行を対象に、1泊3,000円、日帰り1,500円等の助成を実施
- CO2フリー水素の活用等に向けた連携
・ 都、福島県、都環境公社、国の産業技術総合研究所の4者が連携し、共同研究、情報発信等を実施
- RWC2019日本大会を契機とした観光振興事業
・ 国内開催都市と連携して、被災地を含む日本各地と東京との周遊を促すプロモーションを実施
- 災害廃棄物（がれき）を都内処理施設で受入
・ 岩手県、宮城県との協定に基づき、平成25年度までに約16万8千トンを受入処理

スポーツの力で被災地を元気に

■ スポーツ招待交流事業

被災地の少年少女スポーツ団体・チーム等を東京に招待し、合同練習、交流試合などスポーツを通じて東京の少年少女と交流。



東大和市と宮城県の交流

■ アスリート派遣事業

被災地にアスリートを派遣し、スポーツ教室等の開催を通じて、小中高校生がトップアスリートから指導を受け、身体を動かす機会を提供。



いわて大運動会 in岩泉
(講師：柳本昌一さん)

■ 未来（あした）への道1000km縦断リレー

青森から東京までつなぐリレーを通じて、復興へ向けた取組や被災地の現状などを発信。東日本大震災の記憶の風化を防ぎ、全国から集まる参加者と被災地の方々の絆を深めている。



ふれあいランニング
(青森市)

■ 風化防止イベント

都民に対して、東日本大震災の風化防止及び支援の継続を呼びかけるイベントを開催。イベントでは、県産品・郷土料理の販売のほか、東京2020大会を通じた復興支援に関するブースも設置。



2

東京2020大会を通じた復興の後押し

■ オリンピック・パラリンピック フラッグツアー

全国巡回開始に先駆けて、大会組織委員会と共催で、東北三県及び熊本県でフラッグツアーを実施。被災地に元気をお届けした。



フラッグ歓迎イベント
(福島県)

■ 被災地でのライブサイト

リオ2016大会、平昌2018冬季大会に合わせ、大会組織委員会と共催し、被災地でライブサイトを実施。競技生中継のほか、各地域の団体によるステージイベントも行った。



平昌2018冬季大会時の
ライブサイト（宮城県）

■ 被災地復興支援映像

平成28年に東北三県、平成30年に熊本県の復興支援映像を制作。リオ2016大会や平昌2018冬季大会ジャパンハウス、ライブサイト等で上映するとともに、都立学校オリンピック・パラリンピック教育でも活用。



巡回県	歓迎イベント日程	巡回期間
福島県	H28.11.2	H28.11.2～12.25
宮城県	H29.2.9	H29.2.9～3.18
岩手県	H29.2.17	H29.2.20～4.16
熊本県	H29.4.26	H29.4.27～7.7

3

東京2020大会に向けたこれからの主な取組

■ 全世界に向けた被災地復興発信事業

- 今年9月、大会組織委員会が実施するメディア向け事前説明会にあわせて、海外メディアを対象とした被災地への取材ツアーを実施予定。
- 現地でしか伝わらない被災地の現状や復興状況を全世界に向けて発信していく。



復興まちづくりが進む
宮城県・女川駅前

■ 被災地の子供達に対する取組

- 中高生による大会でのボランティア活動体験や、子供達への観戦機会の提供といった事業について、今後検討を行っていく。

